

同志社大学
良心学研究センター ・ 赤ちゃん学研究センター
～合同シンポジウム～

『向社会行動はいかに育まれるのか
: パンデミック時代における共感・同情の発達』

2020年11月14日（土） 13:00-15:00

同志社大学は創設者・新島襄の時代から人の「良心」を重んじています。しかし、時代によって、地域によって、集団によって、良心はすこしずつその形を違えているように感じられます。なぜならば、人が赤ちゃんから大人に向かって育っていく中で、良心もまた育っていくからではないでしょうか。良心もまた、体の発達、心の発達、そして周りからの影響を受けて徐々に形作られるのではないかと、そのような着眼点で今回のシンポジウムを行います。良心学研究センターは同志社大学の尊い思想をそのまま体現した研究センターです。赤ちゃん学研究センターは平成28年度より文部科学省の共同利用・共同研究拠点に認定された新しい研究拠点です。2つのセンターの合同シンポジウムをどうぞお楽しみ下さい。

プログラム

- 12:30～ 開場
12:55-13:00 参加にあたっての事前説明
- 13:00-13:03 司会者趣旨説明 加藤 正晴 (同志社大学赤ちゃん学研究センター)
13:05-13:30 「発達早期の道徳性」
講師 / 鹿子木 康弘 先生
大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授
- 13:30-13:55 「コンパッションの根源的意味について
—キリスト教と社会福祉実践の視点から—」
講師 / 木原 活信 先生
同志社大学 社会学部 教授
- 13:55-14:05 小原克博 (同志社大学良心学研究センター)からのコメント
14:05-14:15 板倉昭二 (同志社大学赤ちゃん学研究センター)からのコメント
14:15-14:30 パネルディスカッション
14:30-14:55 フロアとの交流
14:55-15:00 閉会の挨拶 小原克博 (同志社大学良心学研究センター)

講演者プロフィール



鹿子木 康弘

大阪大学大学院
人間科学研究科 准教授

1977年、大阪府高槻市生まれ。専門は発達科学。特に乳幼児の認知発達を専門とする。2012年、京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。東京大学特任研究員、京都大学特定助教、日本学術振興会特別研究員（NTTCS研）、追手門学院大学心理学部准教授などを経て、2020年より現職。

その他の現職

ATR客員研究員 赤ちゃん学研究センター運営委員
日本赤ちゃん学会評議員 日本発達心理学会編集委員

主な著書

『社会的認知の発達科学（発達科学ハンドブック9）』（分担執筆、新曜社）

『発達科学の再前線』（分担執筆、ミネルヴァ書房）

『ベーシック発達心理学』（分担執筆、東京大学出版会）

主な学術論文

Kanakogi, Y., & Itakura, S. (2011). Developmental correspondence between action prediction and motor ability in early infancy. *Nature Communications*, 2, 341.

Kanakogi, Y., Okumura, Y., Inoue, Y., Kitazaki, M., & Itakura, S. (2013). Rudimentary sympathy in preverbal infants: Preference for others in distress. *PLoS ONE*, 8(6): e65292.

Kanakogi, Y., Inoue, Y., Matsuda, G., Butler, D., Hiraki, K., & Myowa-Yamakoshi, M. (2017). Preverbal infants affirm third party interventions that protect victims from aggressors. *Nature Human Behaviour*, 1, 0037.

福岡県出身、炭鉱の町筑豊で高校生まで育つ。その後、京都、広島、東京、カナダと転々とし、現在は京都市在住。

NTT東海カウンセラー、広島女子大学講師、東京都立大学助教授、トロント大学大学院客員研究員を経て、現在、同志社大学社会学部教授。博士(社会福祉学)。

専門領域は、福祉思想史・福祉哲学、ソーシャルワーク論。実践フィールドとして死生臨床（自殺予防）、精神保健福祉領域。

その他の現職

日本社会福祉学会会長。日本キリスト教社会福祉学会会長。日本学術会議連携会員。社会福祉法人京都基督教福祉会評議員、社会福祉法人イエス団評議員、京都市精神保健福祉審議会委員。

主な著書

『「弱さ」の向うにあるもの』（いのちのことば社、2015）、『社会福祉と人権』（ミネルヴァ書房2014）、『対人援助の福祉エートス』（ミネルヴァ書房2003）、『J.アダムズの社会福祉実践思想の研究』（川島書店1998）（第5回福武直賞受賞）。

NHKこころの時代、ラジオ深夜便、ラジオ関西などに出演してキリスト教信仰について語る。3人の子供たちと妻の5人家族。趣味は、亀、クラシックギター、カーブ。キリスト者。



木原 活信

同志社大学
社会学部 教授

当日資料

「発達早期の道徳性」
講師 / 鹿子木 康弘 先生
大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授

・ 全 3枚

講演時にお手元でご覧ください

全ての資料の複製・転載・二次配布は固く禁止いたします。

発達早期の道徳性

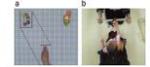
20201114@同志シンポ
 大阪大学大学院人間科学研究科
 鹿子木康弘
 連絡先 : y-kanakogi@hus.osaka-u.ac.jp

研究テーマ

モチベーション：ヒトの社会的認知の発達の起源を探る
 ・他者理解やヒトの本質を理解したい
 ・その発達メカニズムを解明したい

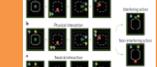
これまでの研究：主に12ヶ月以下の乳児を対象

① 他者の行為理解



Kanakogi & Itakura, 2011, Nature comm.

② 道徳・向社会性



Kanakogi et al. 2017, Nature human behav.

③ 社会的学習

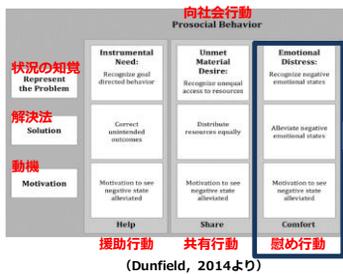


Okumura, Kanakogi et al. 2013, Cognition

これらの3つのテーマを中心に、研究を進めてきた

発達早期の向社会性

■ 向社会行動とは？：
 ・他者の状況を認識し、他者に利益をもたらそうとする行動
 → 生後2年目以降では、主に3つの行動に焦点



より幼い12ヶ月以下で、弱者に対する態度や弱者を助ける行為を肯定するかを検証

発達早期の“同情心”

■ 前言語期 (10ヶ月児) における苦境にある他者への原初的な同情行動を実証

攻撃相互作用条件



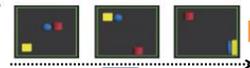
攻撃者よりも犠牲者に対して接近行為がみられる

衝突なし条件



衝突がない場合、接近行為の偏りはみられない

中立物体が追加された条件



中立物体と比較しても、接近/回避傾向はかわらない



Kanakogi, Okumura, Inoue, Kitazaki, & Itakura, 2013, PLoS ONE

その含意

- ◇ 前言語期にある10ヶ月の乳児が、苦境にある他者に対して原初的な同情的態度をとる
- ◇ この苦境にある他者への反応は、後に発達するより成熟した同情行動・援助行動の基盤となっているかもしれない
 例：苦しんでいる他者への注意や接近

成人の反応は異なる？

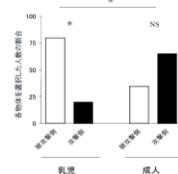


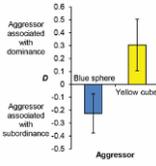
図2 乳児と成人の選択反応 左は Kanakogi et al. (2013)の乳児における実験結果で、右は鹿子木ら(2011)の成人における実験結果。アスタリスクは有意差を示す。NS は有意差がないことを示す。

(鹿子木, 2013, ヘビーサイエンス)

成人の反応は異なる？②

幾何学図形のアニメーションは、成人において（明示的な）社会的特性の帰属は活性化させるが、**乳児とは異なり、価値を付与するような評価システムは活性化させない**（潜在認知と顕在認知の乖離）

①幾何学図形の社会的関係に言及するにもかかわらず、各幾何学図形に対して嗜好を示さない（しかし、社会的望ましさがあるときには嗜好がある）



②IAT課題では、各幾何学図形に相互作用に基づくimplicitな価値を帰属しない。但し、黄色の四角は青い球体よりdominantと判断（逆の関係を明示的に示していても）

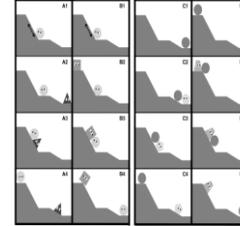
幾何学図形の使用が問題か（方法的問題）？それとも成人の向社会的性の本質を反映しているのか？（ヒトの向社会的性質の発達の差異の問題）

Kenward, B., Berggren, M., Kitazaki, M., Itakura, S., & Kanakogi, Y. (2018), Psychologia

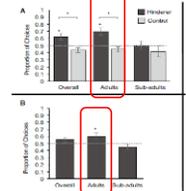
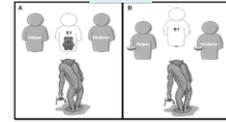
ヒトでない霊長類では？

ボノボでは逆。強いものが好き？

実験1



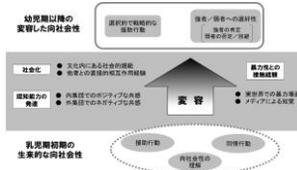
実験2



Krupenye & Hare, 2017, Current Biology

向社会的性の変容過程

- Warneken & Tomasello, 2009; Tomasello, 2009
 - 他者を助けるという向社会的な性質は生得的であると想定
 - その後の発達で、より戦略的な性質を帯びる（学習で）
- 鹿子木 (2013, 2014)
 - 援助行動だけでなく、同情行動においても同様の変容を想定



向社会的性の変容メカニズム (鹿子木, 2014, 発達心理学研究)

年長児ではより戦略的？

6-8歳児は観察者の心的状態を考慮して、戦略的に向社会的行動を示す

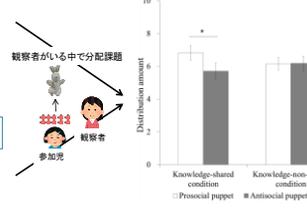
Knowledge-shared condition

参加児-観察者ともにバベットの特性を知っている



Knowledge-non-shared condition

参加児だけがバベットの特性を知っている



Shinohara, A., Kanakogi, Y., & Miyata, M. (2019). Strategic reputation management: Children adjust their reward distribution in accordance with an observer's mental state. Cognitive Development, 50, 195-204.

“生得的な”向社会的性は本当か？

- “Natural altruism”への疑問
 - 先行研究ではウォームアップフェイズがある
 - その互恵的なやり取りが、子どもの向社会的性を喚起させた？

Rethinking natural altruism: Simple reciprocal interactions trigger children's benevolence

Rodrigo Cortes-Barragán¹ and Carol S. Dweck¹

Department of Psychology, Stanford University, Stanford, CA 94305

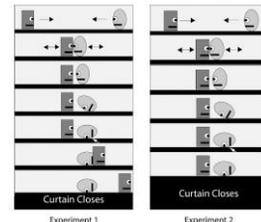
Contributed by Carol S. Dweck, October 12, 2014 (open for review June 11, 2016)

A very simple reciprocal activity elicited high degrees of altruism in 5- and 7-year-old children, whereas friendly but nonreciprocal activity yielded little subsequent altruism. In a second study, nonreciprocal activities elicited 1/3 and 2/3 of the generosity of the new group. These results challenge the current dominant view that social experiences cannot account for early emerging altruistic behavior. A first study with preschool-age children, showed that subtle reciprocal peer-to-peer games of altruism, whereas a fourth study with middle-school children showed that even a brief reciprocal experience elicited high rates of generosity of altruism in children. Collectively, the studies suggest that simple reciprocal interactions are a powerful trigger of altruism for young children, and that these interactions lead children to believe that their relationships are characterized by mutual care and benevolence.

Barragan & Dweck, 2014, PNAS

同情より社会的地位？

幼い乳児（10-16カ月）は争いに負けたものを好み、より年長の幼児は（21-31カ月）強者を好み
> 社会的地位への感受性から解釈



Thomas et al., 2018, NHB; Thomas et al., 2019, Current bio.

発達早期の正義感

■ **正義の味方の肯定**：前言語期（6ヶ月児）において攻撃行動を止めるエージェントを好むことを実証

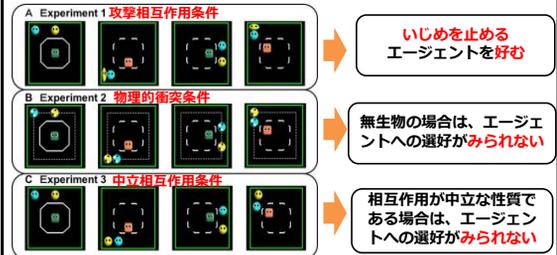
刺激映像



Kanakogi, Inoue, Matsuda, Butler, Hiraki, & Myowa-Yamakoshi, 2017, Nature human behaviour

発達早期の正義感（結果）

■ **正義の味方の肯定**：前言語期（6ヶ月児）において攻撃行動を止めるエージェントを好むことを実証



Kanakogi, Inoue, Matsuda, Butler, Hiraki, & Myowa-Yamakoshi, 2017, Nature human behaviour

現在行っている研究

現在進行形の研究：乳児による第三者罰

背景

- ・ 乳児期の道徳研究の問題点
 - > 第三者視点のからの他者行為の（良し悪し）を評価を測定
 - > 乳児自身の直接的な反応（道徳的行動）は？



本研究

- ・ 視線随伴課題（Miyazaki et al., 2014）を用い、乳児の直接的な反応を計測
- ・ 前言語期の認知課題における参加型パラダイムの開発

イメージスクラッチ課題



Miyazaki, Takahashi, et al., 2014, Sci. Rep.

- ・ 視線で画面を操作することができるインターフェース
- ・ 乳児の自己主体感を反映？

まとめ

- ◆ 発達早期から、道徳的な評価や行動の萌芽がみられる
- ◆ それらは、その後の道徳的行動の基礎となるのかもしれない（c.f. コアノレッジ）
- ◆ その発生メカニズムはいまだに謎：生得的な能力か経験によって獲得されるのか？

当日資料

「コンパッションの根源的意味について
—キリスト教と社会福祉実践の視点から—」

講師 / 木原 活信 先生

同志社大学 社会学部 教授

・ 全 2枚

講演時にお手元でご覧ください

全ての資料の複製・転載・二次配布は固く禁止いたします。



コンパッションの根源的意味
—キリスト教と社会福祉実践の視点から—



同志社大学赤ちゃん学研究センター・良心学研究センター共同開催
2020.11.14
同志社大学 木原活信
kihara0918@gmail.com
ホームページ: kihara.life



はじめに

友人、故・榎本てる子さんのこと
「泣く人と一緒に泣く」 HIVAIDSの患者
「喜ぶ人と一緒に喜ぶ」国家資格試験3度失敗した学生が合格したときの喜び

喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい (ローマ12章15節) 「共喜共泣」

1. コンパッション (共感共苦) とは何か

コンパッションとは?
上から目線ではない
腹腸 (はらわた) ちぎれる想い
σπλαγχνίζομαι

「ちむぐりさ」 = 肝苦りさ (沖縄の言葉)

2. キリスト教のコンパッション

神の愛 アガペーの愛 (絶対的無条件の愛)
イエスによるコンパッション

神の似姿 (イマゴデイ) としての人間
欧米の社会福祉形成の歴史的原動力
Charity

よきサマリア人の譬え ルカ10章30節~36節

「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。
ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。
ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』
さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」



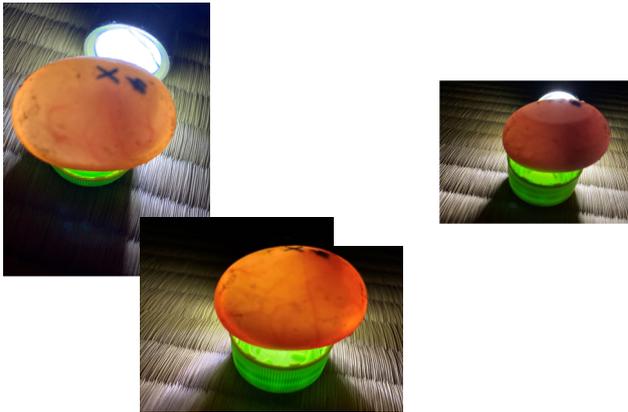
Σ π λ α γ χ ν ί ζ ο μ α ι 翻訳一覧

新改訳3版・リビングバイブル訳 「かわいそうに思い」
 新改訳2017 「深くあわれみ」
 新共同訳・共同訳 「憐れに思い」
 口語訳 「深い同情を寄せられ」
 文語訳 「憐み」
 岩波訳 「腸がちぎれる想いに駆られ」
 柳生訳 「深くあわれみの情に動かされ」
 塚本訳 「不憫に思い」
 永井訳 「不便に思ひ給いて」
 田川訳 「憐み」
 望月訳 「内臓が揺れ動くような痛みを感じ」
 フランシスコ会訳 「哀れに思い」

3. 動物のコンパッション？

コンパッションは人間だけの専有物か？

亀のコンパッション！？



4. コンパッションを喪失した現代社会の問題

人工知能 (英: artificial intelligence)

消えていく職業 オズボーン (オックスフォード大学)
 (and 野村総研)

今後10~20年で47%の仕事がAIに取って代わられる！

消えない仕事は何？

なぜ？ 独創性、共感性

5. 良心conscienceとコンパッションcompassion

良心 (共に知る) →コンパッション→

実践・行動→他者の共鳴→社会的承認

「彼らの行動パターンは、その時代の社会問題、差別構造の実情を知らされ、それを自らの問題として自覚→良心(共知)し→その苦しみに自らの立場を重ね→コンパッションして→自ら解決のために実践・行動を起こして→それが他者、社会へ共鳴し→やがて社会に承認されていく、という一連の流れで説明することができる。」

(木原,2018 : 68)